



不中丸拍摺才七

特別
リ5
12960
7



平泉物語卷中七目錄
 清水冠者付水團下白
 火燧台我
 伊州也屋落
 夷盛
 本曾山門縣地
 平泉連累
 維盛那落
 忠友那落
 青山

行生燭語
 本曾那事
 藤原台我
 還亡
 也錄
 主上那落
 聖王那落
 經正那落
 一門那落

小汀氏藏書



平家物語卷第七

秀永二子三月上旬より本尊冠者兼仲と共來
依朝不候（影）の事ありと云ふこときり共依
頼本尊討人たりふとてこれせい十葉
能騎て信濃國へ尋向を本尊まゝる依（タ）回乃
城よりり々るうれせい三十餘騎て城を
い〜信乃と頼故にありひなる惣坂山下
陣をとり共來依も回國れうら善光あり
〜うけふ人本尊めれと子の今井中納言
平家使者より共來依乃とてへけり〜と抄

清通を来ハケ國をうり志すのつゝ東海を
よるにせめよる平家と追逐さすを志す
かなわぬ仲も東山小隆^{ホシ}を頼りて
しるべきの平家と一日もさるる平家を
ほろがさんとすらあてしてしうあふよりの
かり子細きてう清通と義仲なうをぬり
て平家子とすれはしを思ふつゝ但伯叔^{タチ}
十郎義人没しう清通をうりみさるることあ
らうとて義仲のありへおしけるをうりなるの
とくすけなうもてなりやさんこといふん

さやうへむうら清通中らに義仲よをひて
る全^ニく義^ニ思ひなるとさひはつゝさき
たるにこれ無^ニ依^ニ取^ニとらうさやうよまんと
とまらうう頼^ニり^ニつゝ平^ニ家^ニの^ニた^ニて
わりとけるをさうすらうめわり但^ニれ^ニよを
よらううらひとてお肥^ニ板^ニを^ニさ^ニれ^ニして
既^ニに^ニ討^ニ自^ニを^ニひ^ニを^ニら^ニれ^ニく^ニり^ニ一^ニ字^ニを^ニし^ニつ^ニて^ニ本
當^ニ志^ニ美^ニを^ニ類^ニな^ニく^ニ中^ニを^ニあ^ニけ^ニさ^ニひ^ニの^ニた^ニら^ニよ
婦^ニ子^ニを^ニ清^ニ水^ニ冠^ニ光^ニ翁^ニを^ニと^ニて^ニ生^ニま^ニす^ニ十^ニ一^ニ歳^ニす^ニ
な^ニり^ニま^ニけ^ニら^ニよ^ニ海^ニ野^ニ望^ニ月^ニ海^ニ坊^ニ海^ニな^ニといふ

一人南子にけしものをわひうへて共衆佐
のりへけつす共衆依はうをまこと
子いとおかりたり頼朝の成人の子を
もつてうへくあを子みし中さんとて
清休冠老をわひくして鎌倉をうめられ
きれさうほとよ本曾兼仲や赤山如隆あさ
けうり清くすくにやこるそと建り
りしあしきつと平亂をさすの冬入法より
明を馬の茶朝子付ていくさあるよしと
ひろうきく建りしれや山陰山陽南海西

海の長ともうんりのこととたをわつま
赤山を江義法にけしものを
しとれとも赤海を江よりひんし
代長を一人も赤くし西よりれ赤りしと小
隆を赤くしこの長を一人と赤くす
平家此人と赤曾兼仲をうつてのち共衆依
頼朝を打つてかりしとつて命降きてつ水國
を討ちてうへひきらる大將軍もを小松三
位中納言盛朝ありて位毎感副將軍もを藤原
忠成皇太子亮スチツ子正法房三河守知

新得大将子々新中一お目盛後上総大吏判
官之繼成淳大吏判友系高河内判友露國高
橋判友長繼成茂之原左兼門之團新中一
原長清盛績上総又原忠光魚七兵衛系
清を先として以上大將軍六人統るるを得
三百四十人部合うれば勢十百多清四月十
七日此原の一然よらやこをたつて水圍八
ころおもそく進まれ河内道越えしつてくれハ
つふさうの美らう里けし免て路次よもつて
意控門原敵の正統友物をもむらねと一と

おみかうとひとる志盛原清三川原ま野ま
味塩は貝川のみらのやと里を清水又延捕
しつとれ里け進し人氏うらすしと山登
舟これ遊遊と大將軍惟盛盛威をすくみぬ
了も副將軍忠彦澄正清房系教なとをい
まるを江國垣川貝はよひのへ給つる中一
るを澄正を清彦愛絵れみり小長ししり
人よりおりしれし成りた湖のもさお
うら出するの嶋をみりしつて供子以取
兵衛を魚なりしと進をすしつ川をとりし

うゑ同流くもわれうまを以折生嶋久
と申されやつ子あまをまありいさやま
いらんとて有無東有悪安東口ち悪く未信
又六人のうゑうゑて小船よけり折生嶋つう
集られけるはち卯月中のい日れ申なれ
しみとるまよんもか携よままれ情をのそす
うゑうゑいりまうんあくの音音よ急老て
そゑのねゆりうゑかとくまきおつとたりう
かよほもまゝつるまらつよ藤波をれうけ
まことふたもろつるまもまをつひまとい

うゑあふりおり岸よあつてあのを嶋乃氣
文をみのふあくるもことまをよまれ
と或や童男州女を携うまゝ或もお土を使
とて不苑のうゑまをりこのめかうらいを
見まをいながやうゑらうゑとまてつう
船の中よて老と水うゑうゑてりてりてり
舟さうまきん遠菜洞のありさ海もあまを
とてやそ見えうゑ或はよまゝ圖浮捲の肉
よみうゑありその中うゑ全摺際よま生
かゝる水摺摺の山ありと女まびあといる

ろがさんうやうこのひなりとらあんで
 又母よ家生嶋をそかられけうさるほと
 本尊教仲をまつつや信法よりり
 新お國火うらり城をうりへけら城
 子このり勢平泉も母史奇の城師員控入
 道佛控縮津新か新藤右林六房光明石是え
 崎と回長部入善佐義をうりやして六才
 多崎ううふもりれ下とやうる寤覚れ城
 塚磐石をもちたちめうりて口あよるの城け
 らのうら山をうりろり山城ありあつ

城廓のまへまを結義河新を河とそ打れ
 たりはゆさく清乃河の落のひよ大石をうさ
 ぬのを大本をきりて送發本おひき志う
 み城おひたうりうりあきをうりて本
 乃山れ招き水をさあふて遊るひのへけ
 新南山をひきしてま晃をたくる
 里浪西日をうりつるこれか井原備らと枝
 至瑛池のうりこまを金銀のいさこ新いさ
 明池八渚まを徳政のよひをうりるらと我
 朝のまうりる城れけえのあも境をつま水

を濁して人此心をたふらうとを尋たなく志く
をたやまう清く人たやうなりたれ平泉
乃大發むうひれ山も看してつらつら日
穀をそをく里きらうの城塚も終る平泉
古の長吏母の城塚師平泉も志ぬのく平泉
けも山れ根をふらうとせうそくをうさ養因
にの連平氏乃件へう射入らるけももの共
二連を奪て大將軍の清およ氣りむらうく
ころるよあめ河と中を城お乃測ふあうす一
と山河をさきとくめ水をはらうて人の心

をふらうの正教も入て是らうともをけり
もして志うらみをまらやとさせられな
水をけなく流しつらまらうさ發り人
馬乃是をらうと取うてはうら夫をいはら
其らうや忠を平泉も長吏母の城塚師のや
城とそ書らうとらる平泉斜なうそよらるこ
ひ教もつらうのうともをけらうて逆
其本をまらややとさ發りたれたれをけら
もをひたうらそをみくきれともまことあ
山川をそめりたれの水をほくなく流らる

平家志ししれ運ぶるも及びずさつと渡す
城のうらりも六十餘騎を死戦せしむ
多岐小壱坂かなふしとも思ひさりきつ
平泉と身更奇の城後帥を平家よほめて忍
むつこす畠隈入さ佛指指津新か新藤右持
六郎光明りおつしとやおもひん城をお
らてか突圍へ到しるる白山河内また
この多平家やりてか突圍より朝せし
しやしこの城塙二箇取やあきらふなふ面を
せりふししともみしとらとたりちりさ着る

より死勝をもつてはけり一都へ甲さるはれ
も大后教を始をて一口のふくつさみらり
あひのしききり曰ふ月八日平家をか突圍
濠取るて勢揃して大后搦手二女丹弓の川
て向しれり大后の大將軍を小壱之位
中一將維盛部ある三位毎盛徳大將を中
前日威後を始として七美餘騎か突圍中
れ場なり礮波山つらびうしきけりつら
この大將軍を三河守知教淡路守清房傳
大將をさ茂苑三郎左衛門守國をえりて

都台とのせい三百餘騎結疊部中のさうひ
なり志保山へさうひしきりる本曾やうれ
法親後の國府よりあつる路のうまを穿て又
美多路で國府を立しとたを山へ廻じし
最仲のゆくさの吉物なれしとて五美多路
を七身より分けるつ伯叔の十席登人の苑一
美多路で志保山へそひりひきり梅江次席
並克路台立席並り七十名路水尾坂への
らめてしより流のしと仁科^ニ山田次席
七十餘騎南尾のへ川のうまきりし一まん

よきを越波山のすう松長入柳屋どこの本
林よりむふりくすと升口席兼平六十餘騎
漸^ニを打渡してしりま^ニやしよひのるさう
本曾より力を一^ニ百餘騎しをやるし
をしてとなをやま^ニ水のしつ^ニ羽丹生^ニ
件^{キリ}をそと^ニのら^ニま^ニる本曾没きひげる平
を大發てなれし軍やさうのてりきわひ
此軍よりそあ^ニす^ニん^ニ怒^ニあ^ニひ^ニの^ニつ^ニを^ニ
とつふをせいれ^ニぬ^ニが^ニよ^ニら^ニく^ニな^ニれ^ニる^ニ大
發か^ニた^ニり^ニも^ニ取^ニあ^ニら^ニれ^ニて^ニも^ニ叶^ニふ^ニら^ニん

之^{ハカリユト}禰子白旗世流うたててく玉坂のうらま
打立たうと平氣一通をみくあしや源氏乃
之伸乃じふふらるる歌を業肉者汚本を
業肉なりあめ山あま方巖石てあふたれら
搦手ふもふつしし志りしちつとめては
のせいまこじとてと波山よそおたりぬんを
ら来そのやふ伸替あひりらふていふと
ておつて目なううとねま入て平氣れ大を
いなうしるるりううの若へ是れとさうん
とてえ白繼三十たりのまうろありのうらま

は打立られしあんのこととせあれをみくあ
しや源氏乃大坂のじふふらるるをとうとあ
られてやかなふまうてさる業肉者汚本を
業肉なりあめ山あま方巖石てあふたれら
搦手ふもまもし馬のま飼水段とさる
らまなりとさるるをちつとめて馬やとめんと
徳波山の山中猿のる場とつふふらるる物
ぬらる本音や羽丹生お伸あて口本をまら
とみましとさる山れらみとらこれころ
まらる^{アケ}米の玉植けの足ててのころまはく

魚不結取心慮仁運於己道授力於國試紀
一教勇剛怕區心不上一件軍旗我場勿有二
不和克之社壇持感純熱明也画法珠戮事疑
歎茲海翻湯作深行就中一曾祖父所陰奧也
貴家朝臣歸附方お字廟之民族自秀石お以
幅古帝己未るを門系史々大由路並仲為其
後強飲首自久今紀法大切禱如萬災蠱測巨
海想諸類并白五車路能為國内夫而紀之全
の力不起之志之至神威在之憑外傾外伏也

冥冥か威靈神台力交勝一時起四方悉然則
可丹初叶冥冥玄鑑成か據え候見一瑞お秀
永二松又月十一日原義仲路白と出下りり
力をけし絶て十三跨り上夫此篇をゆゑ
書よとらう人て大菩薩の法華説くうむ
めけらたのりし死ふか憐大菩薩の志ゆ
たつなきや途は昭鏡志すまひきん雲の
中一より山鳩三川とひまらつて徳氏れ白
繼れう包み翻翻をびし神文皇舌新證を
きめさせ流ひしとまき流本れたくりし弱を

英國の軍艦^{ツヨク}うしてすそをりうとみこく
旨言夫は浮利控あつらうとて雲の中より
英艦三ヶ所をさして浮本^{タテ}の橋の面より
とれて英國のゆくさ破進よりきり又その人
人の先程報知^{サタ}信^{タテ}をせめぬひ
とさみりこのたくりひよもくしてとて
かうもみこく時損報知信^{サタ}款の仲より白けて
あまをふらうとて松の忠よりあつて神^イ忠^{ツク}なり
とて忠をともむ川^イ風^{ツク}たちまら小^イ茂^{ツク}賊^{ツク}れ
る頃おがひ粟屋^イ河^{ツク}の城やも落ぬその町軍

破進して兵^イ任^{ツク}未^{ツク}組^{ツク}けらひよきり日本^イ常^{ツク}敵^{ツク}が
の先^イ程^{ツク}をたけりて出^イてりうまもりうとて
甲^イ冴^{ツク}ゆえ手^イ水^{ツク}うりひをてあのみ艦^イを
舞^イしぬをれむれ中^イうたのもしれ
ががとにあの陸^イ河^{ツク}めしす陸^イのあもひ
流^イのと断^イりうとそををいなる係^イ氏^{ツク}とを
やす平^イ亂^{ツク}とすくまます島^イをそ係^イ氏^{ツク}の
り^イ精^{ツク}兵^{ツク}とて十五^イ精^{ツク}楯^{ツク}のおもてり
すくま島^イ十五^{ツク}精^{ツク}の上^イ矢^{ツク}氏^{ツク}福^{ツク}をたぐ一^イ度^{ツク}
平^イ氏^{ツク}れらんつう射^イ入^{ツク}うる平^イ亂^{ツク}りす不^イ驛^{ツク}を

ツリカラネト

越後山乃すう雲母の柳原採^{グミ}採乃本林子列
かこたりたりる一百餘踏日交採ふひのへ
くら今井田糸六十多踏を仰う四れふ志
とらあもまきけらあ核中義銘踏のためをこ
ふ小山之川もたぐ一産よる川おくとよう
雲をまれま程よは骨よるうをならおほ
ふらとてまをむめ来らさるなうの包きやの
るまをひふやのう松ほらまれとも大瓊
乃のふままををたなうあてう包を事
の雲たれへ平畝の大瓊うら乃の採州迦^カ屋の

若へつ建をふとそ落行なるう記ふおと
くらあれんくねをし若の産うをなれある
ふらうとて親押とまこ子もねらう足のか
と勢をまをほく見まおときし家子産ふも
ほくふたり馬を人ひとまを馬落りさか
りくさつるまあつまに一川を平畝大瓊
七多多踏てそうのうらうらる岩泉血^{セシ}をな
一死骸^{カク}骨をおせりま建しあのみふのわ
とらまを矢乃窓乃^{キス}産のこけをいふま
つとそある平畝の法あまひのとたのみまれ

ころとけり上総大吏判友忠経元将大吏判友
高河内判友秀國もこれた丹のうこさう
けりてう受よきう又海中國恒人瀬尾右
藤道康もさきこゆもけりものうてわりたれ
とも運や川ふよんが空國恒人念光次郎
成澄スミのまようつて生捕まうきしれけ
連又新お國火燧の賊もて忠志たるけり
平泉吉代長吏新助城領所も因りてお来
か本曾没も法師をわすれよあくまにまわ
されとてさうきうか大將軍維盛ケツも有

りてが空國へ引返り七系名跡の中より
終よ二十名跡さうおれこれ日十二日奥乃
考跡ヒラのりとも本曾没へ終跡シラ二丈をふ一
ひききき月毛一ひきき連続章毛なりやう
てし馬も鏡ミタマ並て白山の社へ神るよたて
らう本曾没とをかりし中なう他伯叔十席
飛人汝の志保のたうひさうおかげのうか
たれひさやめてみんとて四百名騎のわ
らりるや人をさうつて二美館跡て池向小
あくよ秋見漆シラをまうさうきうか取平物系

煙みりて匂の所は紙をくさりきりたれ
くくき馬十疋ふつを送入らるるは
ひさかちとまてびりひの岸へまきまはく
本曾政あまを見ぬまのさつりける渡を
やめて二義館終つと渡を棄つことと
永花人波をたぐるものもなさまに
人ものつとやとむる所は慈母の徳氏二万
餘騎率ゑ二義館終つ中へりき入りみ
棟て大出らほとるうきあらまける大將軍
三河も教うことまひひぬことまを入道お國

乃末子なりその外共おがまうことまら
平氣うことをも遠落さまてか安國へ引返
本曾ぬち志保の山うらあして終登れ小田
中一親王の塚のあうり件とらる本曾教や
つとそこまて社社へ社館をよき子白山
つし横江ま丸二ヶ所入店を寄をま多田ハ
幅つしてうをれ老養生の社つし結義れ庄
義治のやしらつとまらんつれまやうをま
まんと平氣なるも藤嶋七つををらされ
けうまぬる治兼四日八月石橋山の合戦の

シノハラカッセン

阿曾兼依汝村^イ兼士ともみふのきよ上て
平家乃治あまう少ひけりびねや乃者よを
長井斎宿^スの南^ス美盛^ス浮葉^ス之^ス亦^ス親^ス俊^ス野^ス又^ス亦^ス
宗久伊藤九郎助^ス氏^ス去^ス下^ス空^ス房^ス主^ス並^スなりきお
をうの軍乃あ^スくむ^ス程^ス志^スく^スや^スま^スん^スと
て日ことふらりあひく^ス順^ス酒^スを^スて^スを^ス致^ス
けり先斎藤^ス到^ス南^スのり^スと^スよ^スう^ス日^ス合^スら^ス上^スける
日美盛^ス中^スけ^スる^スく^ス世^スを^スめ^スか^スれ^スあ^スり
さ酒を^スみ^スる^スは^ス源^ス氏^ス代^スの^スく^スや^スつ^スと^スく^スは^スよ
を平家^スの^ス浮^ス本^スあ^スま^スき^ス交^スよ^ス思^スし^スさ^ス世^ス終^スひ^スて

依いさ^スを^スの^スく^ス本^ス當^ス敵^スへ^スあ^スら^スせ^スり^スひ^スた^スれ
も皆^スさん^スあ^スう^ス思^スて^ス同^ス一^スなる^ス次日^ス又^ス浮^ス葉^スの
り^スと^スよ^スう^スの^スひ^スたる^スと^スなる^ス阿^ス曾^ス藤^ス到^ス南^スと^スて
を^ス所^スの^ス美^ス盛^スの^スし^ス事^スへ^スの^スつ^スる^スと^スひ^スけ^スる
も^スその^ス中^スの^ス誤^ス野^ス立^ス房^ス宗^ス久^スす^スく^スみ^ス出^スて^ス中^ス
け^スり^スや^スあ^スす^スく^スま^スれ^スる^スを^ス本^ス團^スて^スも^ス皆^ス人^スよ^ス志
られて^ス名^スあ^スる^ス者^スて^スう^スあ^スれ^スり^スさ^スよ^スは^スわ^スて
あ^スた^スる^ス者^スあり^スあ^スれ^スた^スく^ス事^スく^スじ^スと^スあ^スみ^スせ
新^スの^スう^ス了^スし^スん^スと^スあ^スら^スり^スす^スの^スを^スす^ス宗^ス久^ス
舟^スを^スひ^スて^スそ^スと^ス兼^ス平^ス家^スの^ス浮^ス本^スて^ス討^ス死^スせ^スんと

いひたれし奇縁別當ありて暖くてまことふ
る吾の浮心とて道頓のふひうんとてしころや
これ夷風もと度討死とんと思ひ切てゆえ
うれう包まやうをい大后没ても尸上人を
りも云をさしてゆえいひも道頓又うの翁
りそ同いけりも物末をたのうしとや智ひ
きん南座小ありと致サ多人の物とも今夜
水國うてふ死にりりりそをささんなれま
ほく小平瓦やが突圍藤原小列しうそいひ
人馬れ息とそやすめきる五月廿一日辰刻

本第一美名路藤原よとてまきて何とと
とう池里とる卒死乃のりよ島山老目と
小山田別當をまきつはえ左衛門右衛門
を大后没るてむらとや一在東三ころけり
大后没汝もさあるい老なりゆくさめや
をもとてさしてしうとてと渡水國へひきられ
りりまきり足東三百餘路件のたもてふす
むらり本名路乃のりりり今井百病並卒是
こ三百名路て地じりふとてけしと井始を
五路十騎けり出言て勝負をせり受けり

うのちりよきあ方そこまきてそ我ひけるを
種又回す月廿一日の午刻まゆりのすて
らひ月小徳平の兵ともつまをとりと我
つし編方よりあをいづく水は流るよこし
たすすし井のつこも兵あをわろひよ
きりもこま山あ子能おやくこま力及
つそ引返り次子平能れあらし高判君長
鑑する餘誇てをしりの本常ぬのつこよ
子極は次第意え合ふ而直り三百餘騎
てうらひつ小徳平の兵とも志こくさくへ

てあきまたくつふこまきとも高橋のあふ
あ國さるつらと武者たわはれ一騎とあつとあ
つす我えうしそ高橋けら高橋心をたきう
思ふともうしそあらしよなりたれあ力及
つすたぐ一騎面をさうてそ高橋けらあ
は朝中一國恒人入若小太命のまよいかと
目をのき程程をのこまきしそ也来りなすお
らててしとこまきつらつら入若をけらう
て高橋あ編は押はをらつともしたくうと
そこつては若をなふ若を名はまきううとい

ひもまを新中一國の信人入善小太麻呂
ま生逢十ハ歳とそる家ころる序のころ海を
けくくと浪りくわれじうんまをくま
しり母經の子もあつしと逢や十ハ歳うり
志わ忠祿ちまつて控へまれともあつし助
せんともゆつしまの橋判友を清本の勢
まじりて馬ふるまわりて息^{イキツキ}ぬらま入善
も休とぬらまらわつしれよい歌我を
たをまのまともつふもしてうらまやと心
ひぬらまふたうらまおとけくあふく

物類をくま志者たりける入善さらうらま
をとのれともまきくまらまやまら男
りてわられは橋うえぬひ下ま力をやふ
たちあつし橋判友うらま甲を二カ所と
まがぼとま入善の飛等をくませおと終
まをまけておる台らま橋心をあけう思
つても歌をあまらありまを負け運やけふ
まらんうらまてけぬうらまぬ次ま平家
代つらうらま茂登三麻左麻門有國三百餘計
たつてうらま本尊殿の方まを仁科ま梨山

田次郎三百餘誘てうらひのふをもたう
さくまもせきたくうふも国をわすれよ
流りしして闘タケひらるるも討させりた
らふなり甲をも打たせよ連大臺タカふなりて
夫さゆみふいふれをうらぬゆして我ひ
たつら夫七つ八け討たてられて敵の町
をわくまを立死よさう死ふけき大將軍か
やうなるうんをそのせいみふららそ行
落ゆく坂の中一と我流國領人長井新藤
南夷盛を存すうひのらりたれと赤地の旗

ナ子三リサ

の赤糸。前英城の鐘をクワカ鉄新打ら甲れ
法を走ら金油に代たらぬふ死女田さう
子切生人矢をひ盛藤にう持て連続草毛が
頭馬は金波福のくくを並て来たうけら
汚方人張を落ゆと唯一誘をう合をく
防フセ戒小本書汝れ町さうり手塚太康すくみ
おてわれをさうりりなり人まをわくを結
つしはあふせいやうれ落ゆをいよく一
誘のころをさひさうく誘ナシよむほくう
なめら勢をくくと調を怒けきし母藤

南史てりうのつふわとのを多そ信濃國代
人子塚古麻^{ササ}刺^{ササ}之感とくおれつこれ新
藤刺^{ササ}南さくを海^{ササ}のたれよをよいてさそ他
和教をさく子よをわくそ存すう有のあま
しおれおのやわおま一うよれをまふ
まけつとそ推たくあら取よ子塚の麻^{ササ}おま
を討せしと中よ福くら奇^{ササ}刺^{ササ}南^{ササ}おま
かゝるそそまそとそむ^{ササ}之感^{ササ}あつとれをのま
を日本一代剛のものよ結てうまなうとそ
りうの系^{ササ}らとらる^{ササ}鞍^{ササ}れ^{ササ}あ^{ササ}福^{ササ}お^{ササ}推^{ササ}は^{ササ}ま^{ササ}て^{ササ}ち^{ササ}と

そしうううあを致りき切て控てきり子塚
古麻麻^{ササ}おの討^{ササ}れ^{ササ}く^{ササ}を^{ササ}み^{ササ}く^{ササ}男^{ササ}よ^{ササ}も^{ササ}也^{ササ}と^{ササ}わ^{ササ}ひ
鐘の茶^{ササ}摺^{ササ}刺^{ササ}あ^{ササ}ま^{ササ}く^{ササ}二^{ササ}刀^{ササ}あ^{ササ}一^{ササ}う^{ササ}け^{ササ}る^{ササ}麻^{ササ}刺^{ササ}
ておの麻^{ササ}刺^{ササ}刺^{ササ}南^{ササ}心^{ササ}を^{ササ}擡^{ササ}う^{ササ}す^{ササ}く^{ササ}わ^{ササ}や^{ササ}を^{ササ}軍^{ササ}よ
あしつ^{ササ}の^{ササ}建^{ササ}ぬ^{ササ}自^{ササ}を^{ササ}負^{ササ}け^{ササ}その^{ササ}上^{ササ}老^{ササ}茂^{ササ}老^{ササ}て^{ササ}る
わりの子塚の下うう成^{ササ}よ^{ササ}け^{ササ}る^{ササ}子塚^{ササ}古^{ササ}麻^{ササ}ら^{ササ}を
ま^{ササ}る^{ササ}る^{ササ}麻^{ササ}お^{ササ}小^{ササ}頭^{ササ}と^{ササ}く^{ササ}を^{ササ}本^{ササ}着^{ササ}没^{ササ}の^{ササ}流^{ササ}お^{ササ}よ^{ササ}絶
系^{ササ}て^{ササ}之^{ササ}感^{ササ}く^{ササ}う^{ササ}奇^{ササ}吳^{ササ}れ^{ササ}曲^{ササ}老^{ササ}と^{ササ}く^{ササ}ん^{ササ}て^{ササ}う^{ササ}け^{ササ}て
ま^{ササ}の^{ササ}け^{ササ}て^{ササ}く^{ササ}大^{ササ}将^{ササ}の^{ササ}お^{ササ}み^{ササ}ら^{ササ}へ^{ササ}も^{ササ}け^{ササ}く^{ササ}を^{ササ}發
を^{ササ}い^{ササ}ら^{ササ}と^{ササ}又^{ササ}傳^{ササ}る^{ササ}や^{ササ}み^{ササ}け^{ササ}へ^{ササ}も^{ササ}強^{ササ}の^{ササ}並^{ササ}系^{ササ}を^{ササ}さ

て軍の陣へ赴くは 蟻臨頭をうろくめて
やうやうたれし人なりしれゆへをある厚子
わうろひて先をひきんも抑となきなり又
老弱者とて人乃あふらんこくち朽の
ふてしと申ゆかまことふ漆てゆけりそ
わめくこまて汚境く人と申けきわ本曾没
こもやあるら舞とてめくもせてみ流くを
白綾よころなりはまれ疥癩お南よりふの
虫毒を惹ら上げの事へ花後の汚穢中し
大后波の汚家小毒て申けく美風うむひと

けりことしてや佐もひとも先年坂東へ死向
てゆ一町水鳥此羽言はむやろりく矢下を
くた村とて駿河乃神急よりまきよてゆ
ひ一書一老乃故の死奪たぐあのことゆ今
彦水園へふつと向て打死たりゆ了しうれ
よつたゆひてを賣感りとも朝ふれ老より
ゆひしをま汚飲はけめて成花も君臣を
まのゆむふことのためへれゆろくおつ
るを報をふてのゆかともきしめられ後ゆ
ひくくまを汚死なりらんしと申もまを

大層敵やさうとうと甲うる者り明とさしり
され並をせと汚物あつる致とそさこそさる
乃朱買長をり—され被を書^{クワイ}越山^{ケイ}—^{ヒルカ}翻志
いす入森友初南やうれ名を小圃^{コノ}の巷^{キョウ}は揚^{アゲ}
さうや朽^クとをぬひさ—まらぬとやうのを
まて^{カネ}難を越路^チのすえれ^チとかなるさう森を
まま四月十七日十義館^{ジウギ}終りて都を出し奉
う—らなふ雨をじりふ—しとも思ひさう
志し—いす入五月下旬ふりる上^{ウヘ}の不ふもさま
辨^{ヘン}終二百館^{ニヒヤク}終りてれをけく—してすふらう

ゲバウ

町を扱がえれ並^{ヘン}流うるといふ明^{メイ}遠^{エン}の魚を
—し林を焚^{ヤイ}てうらさや扱がえれ^{ケタマ}黙^{マク}さう
ふとりるとも明^{メイ}遠^{エン}にきこそのなり後^ゴを存
—可^カ少^{セウ}やそのこさるるうり^ウ上げ^{アゲ}る物^{モノ}をとり
んくもわりけるらうや上^{ウヘ}総^{ソウ}志^シ清^{セイ}花^カ終^{シュウ}る
葉^{エフ}取^{トク}やちと逢^{オウ}入^{ニル}るお圃^ノ薨^{コウ}き—り—町二人
ともよが死^シしてありらうらと度^{タク}水^{スイ}圃^ノまを
子ともみふ—い^イ連^{レン}ぬと夢^{ユメ}てその智^チ心^{シン}のけ
もありや終^{シュウ}りなけ^ケ死^シらう死^シりけ^ケ凡^{ボウ}京^{キョウ}
中^{ナカ}—まを鼠^{ネズミ}らよ門^{カド}戸^ドを^ト閉^トて^テ鐘^{カネ}打^ウおら—群^{グン}

あり小念佛中たのまありきぬことおひたぐ
志又ま國を國とくぐれくくく六月一日祭
主神祇権大臣ラホ中ホ一ホ臣ホ親ホ後ホ孫ホ政ホ上ホの下ホは
るめくまて今度共葬カクしつまるく伊勢右神
まへ初幸ありつるなり一節下さる右神まる
むくく一書問取らりあふらるるをのみひて
仁と皇の清宇サヌ自二月は大和國ホ望ホぬい
の置ホらり伊勢國渡會の郡五十七ホ河上ホ志ホ
川石根ホはたま柱を少くくまたてくありの
年一よりとい来日六十餘列三十七百五十

銘法乃大小れ神祇冥ホさの中ホ一ホもを無双也
さきとも代くれ清門ホ遂ホは清ホ考ホをたりのころ
よ奈良清門の清河左大臣ホ不ホ以ホホ乃孫ホ系ホ孫ホ
亦部ホつう合ホの子左近衛少将兼大臣ホ少ホ戴ホ藤
原ホ實ホ朝ホとつ小人ありきりて平十又自十月
は肥前國松浦郡よりて教養乃軍兵部ホ志
て國家を改まめやふめんホとくうれ時大聖
の東人ホを大將ホとして廣嗣ホ延ホ討ホきく神ホ一ホ河
清門清初乃たのま伊勢右神まへくくめ
初幸ありくその物とくさくくく一節廣嗣を

肥前の松浦より都へ一日おちつこのほろ馬
とそりららとまらるさまと延討まられし
時も浮おる兵ともむらう幾ういさうい
し件のるまうり家て海中へもを入らる
とうまこころも之矣あきてむらうり
とまはほろり同くまらま十八日航あ
國津笠天ぼりと太宰府の親世もあつた
不導師もま延討僧正とまらまらし
まのぼり種りらなるとまらまらまら
雷をひたくりう鳴りうの僧正のうら小落

めくまうれ首をきて書れ中つる入まらる
あまを意圖延討まらつとま個伏志まら
志故とままらまら僧正を吉備大入座れ
河お傳てまらまら法おまわらまらまら
唐人のま延討とつるを嘆て延討とまら
とままらりりりりりりりりりりりりりり
ま十九日六月十八日とやれりへお延討
とつ小銘を書て真福寺の延小落し人
らし十人つらうりまらまらまらまら

らふをこしきり奥福をばはねおふれと
よふのてかりその才子とも是をまをて
つゝを肉は細のそく歌藝と名はきてつと
わり是よあつて廣嗣のそ美をありめられ
て肥前國松浦のそれ鏡えとそは鏡皇帝
の清和天皇のそ御替りすくの舟よりつて
すそよをけりみくらんとそはつて清ひ
清門清和のたりよ才三皇女祐吉の親を
實茂の奇院よとすつをのふあれ奇院は始
なり朱藤院は正明を純友將門は討れとら

とそは幅の清和のそを始らすとそをその
物たるてしとそは備くの清いけりとも
わりのまつとそはけしに本尊兼仲や朝前の國
舟よけりて最子最おのつりつて辨定と
探兼仲を江國をてつと那つて上はへふ
よ海の小船ともれあきをこともやわらじ
すしん然破てとけらん事はやとまれとも
南時と平亂つて佛法ともそはまをほろ
ほし僧を去し魚形をしつとすなれりまは
ち護のたりよ上洛ちんする兼仲の平亂と

キソサニモ
テウシラ

ひとけなれりて山口の鬼徒よびのつて
台我きんこかもつりてぬ二の森なるへ
志こ通しうさすうやと大事らつてとんと
まへをま書よまきうまうまきう大夫坊え
明すくみ出てしりぬ山口乃大森をさす人
作ならぬ必一味曰んからことぬぬとと
ち平氣よ同むとんとち平氣よ同むとと
源氏よ同むとんとち平氣よ同むとと
清のちとて清のちとて清のちとて
そ又しゆつめとち平氣よ同むとと

了しあつてそのきとて是のよ録たをのてを
て山門ををくららをたふい

兼仲信見事氣通保元平治以来長生人信
礼隆治を結末自福系敷是通事位龍慮
領國郡不福さ理地理捕控門勢取ぬる
財を城換之つお侍居棄取を質財走与取
没収好老園濃省子孫就中一治系三子十
一月を遷法皇於城南難を流博陸於海
治城高者不言是路以因か之同口自又月
園二文栄園増九生之増益家帝子為道相

名竊園城寺入洛之時教仲之日給令旨南欽
卷報不悉敵滿巷緣糸失道乞急源氏於不系
任況お意遠純園城依無不頂刻通都馬宇治
橋台我大将三位入為輕政父子輕命重義治
願一我之功不免為彼之變異新鞍お六所皆
源姓命お在河波令者類銀時回敷越法福依
之東園源氏お吾企急洛欽誠守死教仲去在
林為在者志揚旗把劍出信別日類信國任人
城口急長茂秀教美軍兵急向馬南園横河
急台我教仲渡以三十名請被技教百兵平風

及廣平氏大将秀十美軍士急向水陸類別
實別源浪忌坂垣坂藤原已下賊塚教个有台
我軍策お惟怪中一得勝於源已下純擊必復
兼必洛不吳林風破芭蕉お同冬書拓兼教是
偏神助佛記之助也又他兼仲茂略守氏教小
上企業洛者也今也教岳禁了入洛陽瀬南計
時竊有類給押る命法回心求急教与力源
氏教急可助坊急法向急院可台我急致台我
教岳城之不可能躰越外平氏拙震襟滅佛位
回為請急送教兼兵不忽向二十兒法教不急

亂使過の儀をむるの急しき源氏合力の志
を恒とて承けり三十一日小倉藩しき也
をくつをくつにけき本當教又亂子席亦免
あつて光明小倉の也藤をひらりきり子
六月十日録内同十六日外來指之而教日
禁念一時亂を平亂也遂乃累多約延強幼
至心事在人但不知遠共使到散岳為帝親在
小仁祠致國亂教禮指初法一云久假好大遂
曰海鏡不的も安全岳岳法指初云擁護神威
屢廢爰を亂適生子代長徳亂率為南河精選

之仁。豫運。豫孫。起。象。兵。忽。忘。死。命。樹。一。我。之。功。
を勞。未。也。あ。良。も。不。既。浪。口。海。我。山。前。法。止。以。
取。順。為。國。亂。初。累。亂。感。而。切。感。我。略。如。世。則。知。
山上。精。初。不。室。自。古。地。古。常。恒。佛。法。本。社。未。社。
系。真。神。的。定。善。者。法。每。業。隨。其。業。致。復。舊。前。法。
小。心。中。唯。色。質。業。法。身。冥。十。二。神。將。亦。為。醫。王。
善。漸。使。者。あ。か。色。賊。延。討。勇。士。致。之。予。而。統。哲。
心。終。學。鑽。作。之。勅。系。全。助。魚。信。治。符。之。友。軍。心。
親。十。系。替。風。掃。軒。侶。於。和。外。臨。加。三。委。法。為。
血。河。信。お。愛。道。者。見。法。會。議。如。法。信。宗。之。奇。永。

ヘイナキ...

二月廿七日二日大前等とう書らるる平苑
あまをいしゆありとたり活す、奥福園城西
あを背懐をゆくりりる切りしかなれし
らふともうもなひりし南苑を山門外をい
て守るるあをいしゆりす山門又南苑北なり
る不忠を存さす詮する不山王大師より折
りて三千の命法をのりしりしりしりしりしり
のふつ十人因び連累の教書をういて山門
ををくらりりその形出りしりしりしりしり
路白に延慶寺准氏より日吉社内氏社一白

テニタイ...

下原を台佛は奉衣一務孝行より折能
飯如何般山乞極衣己皇河之傳教大師入唐
得相故為教法は法承遠那大戒從侍を肉
以未書る佛法整昌矣審久備法獲國家道場
本伊豆國流人徳朝不悔之治還朝朝
心之与軒疎致日心極氏等並仲新家以下結
堂有教儀法意境極教教國去宣去真押教百
物因山或区累代勉切記或仁南阿り馬燕速
可下討賊法活伏函堂由苟合勅命頻全証討
哀似至鷲鷲翼伴友軍不得利を謀夫戦威遠

數子勝於神明佛陀被華禮及送函此耳
曰況亦心居亦畏禮之規也此名龜跡之業也
孫の恭躬自と己後山門之規の一門信社家
多憤為一氣憤各侍子孫永不失法藤氏以春日
社真福与る氏社氏与久由法お大系亦守氏
以日吉社延慶与る氏社氏与親使過受其給
惟者何者造法也為氣里業幸以今精初也内
君清進討源朝山王七社王子眷系东西満山
護法至息日克月克醫王善術昭至二丹城系
唯一空庭然必邪運禱后賊業自於君門果運

此言者傳首也京上仍南家心お吳口同高
地雷初精也件造三位仍兼部亦守平初后毎
感造三位仍 兼右之縁中 将平初后資感
正三位仍左之兼中將兼伊豫守平初后維感
正三位仍左之兼指中 仍兼攝度守平初后
兼初后清宗系後正之位仍曾左舌又控大吏
兼治理大吏亦實部中 守平朝后理感造二
位仍中一由之兼証夷大將軍左兼兼守平初
后兼感造二位仍控中由之兼肥亦守平初后

教威正二位の持太師之兼淡奥出羽探察平
約信頼威從一位の肉太師の信宗威壽永
二道七月不日路白とそつとまじりて
をあつて進みなりひてあつたう流流しひらう
とさうさしと十福師権現の社壇より三日あつ
てうれ後流流し指^{ヒラ}宿^カぎうふけし地んをうり
とも思ひさうりけり教書のうとまじりふう
さう一とあか来れ
たつううふらぬさうわやも道あれし
さうへつとあくねとさうみま

山王大師あれをあつれみぬく三千の流流
らううを合さるとなりさ進とと道さう日
とろの振舞神慮^トとをうのひん望^{バク}うとさ
ぬ進しつれまともうふりすあつとさ
かひつとさうり太師もまことふさうさ
とことれていをしあし進しきれともす
丹原氏合カレ也藤を送るううう色いす
りるくしそその儀をむるう色さ
とねそこ進を許^キ密^ミするとあともたし
ほく小月七月十日日肥ほち太師^チ徳^{トク}あつ

二道七月不日路白

おびたいろけく華池キウチ原田松浦兼よりの子
まへはけしとのこ子餘騎をのりて上洛
すらんせいおまのりお多いろけやと東國
小國のゆくさうもたつまらと同一ふ
か二日入敷まらるる六とるの道をしたく
しう強効サウトウにふるをる服帯をたねとも
東海南水へもあひくすたくと敵のうら
入らるやうなりまらるるのちまらるる
を義濃源よ依濃源門射まらるるもの
わりま保えの合戦の町鎮チンあひなるおらるる

いとさふるまて落人となつたまらるる
めそしつるまらるる勲賞よりとや東海射ま
らるるのちまらるる東門射まらるるもの
よろで一口もまらるるまらるる平亂をまらるる
ひらるる六とるる地あり本名とるる小園
よろとよ茶餘騎てせいの不とるる山本とるる
りといよみらしては飛お小指タテ六飛親忠自
書よ大史坊受鳴六十餘騎まらるる山よまほひ
のぼり三すの島徒回ひして只と都へまらるる
れ入り一すたれへ平亂のちまらるるまらるる

元方へお手をさしひきらる大將軍子
新中御之知威師平三位中將重衡三子
驛て都を立てまつ山階も名きし子新あ三
位毎威法也當教證二十多誇し宇治橋をの
たのらる左馬助以威蔭康忠彦一子多誇
てヨト院路をち護きし進まの源氏のおもを十
衆衆人の死教十誇て宇治橋法王のほり部
を入とも子に母たり陸奥新判友勢康の子
夫田判友代表清大江山をく上治すとも
中あへつ又振津國河内源氏寺日心して

甲一うらやふへ乱ま入より中はれいま死れ
んくあめうを力及りすたぐ一雨てりの
月をかり給くとしてあふへひきられらるも
子打多ともみ子まふへ呼り包をまきり希
都名州地鶏鳴てやきまこなるおままれ
子をたにもひくれこくしんやみされ
くらせよをひてさや吉野山のおく乃奥へ
をいつとふもやとをぢりしつされもまとも
徳國七なることくはるむえぬつりり入浦
のをくつるつとを累せおぢめ火書とて

如來の金言キコト一家の妙文なれしなりしや
きたりふへふか曰廿四日此小長史なり
由大臣宗盛乙建礼門院のりききのみよ
羅池汲ふ事や中まきけまはをの中れあり
さ浦さるともささう存作ひしうとさう
よさうゆりれんとやさうまらめうらま
いのりきねんとらんともまのめらと女
院二位汲ふうと先をんをきとらん事の日
朽しうらへや信をもうらなもとのまを西
海北へ侍奉行奉をもなりしうとまを

思ひがたてしうゆくと申さまされし女院
とを忠も南もこのもちりひてしうあ
じもらめとし侍衣此侍袂小あまら侍候を
三あへさせ清もゆと大臣殿も連衣ナチ此袖志
ほらつらまらみくられたるさうはと
法皇や平家とらとを西國此のへ落ゆ
了しなと申すを肉とまありしひもや
ありせんうれよの教せつらと探察大納言
方の子息なる歌賀阿しうとを侍候しひ
うのり侍候をおさせのひて侍ゆく志も志

らにそ汚事なり人乞を志くさりたり平氣
乃侍は搦肉左束門敷床とつゝ夫ありさう
ありしと男より候も色も遣^{ハカ}られけりつゝ
敷しも汚^{ナク}事^ト並^ニも兼て遣^{ハカ}はれけりつゝの
つひの汚事汚事ゆはに相成りつゝ女房を
志のひねもなきおとくありなふことなる
らんときもそれも依りは皇の又くさ勢を
まゝぬをつひのつゝの汚事やらんと申詳
はまゝくおとよありあさましくとてつゝ死六
けりつゝを兼りあめつゝ尸らとせられち大

臣故つてしひのこととしてそあるらんとも兼ひ
ぬゝいろふ兼て見えさう勢ぬふりけり
まゝくさままらと汚事ゆはらとをぬふ
女房を二位敷丹敷以下一人をともさうさ
給りすつゝつゝやと曰ゆつゝさせぬらんとも
わまじくは皇の汚事兼志りまじくをらんと
申さぬ女房を一人を兼てさすみかありさ
まじくは皇の汚事兼志りまじくをらんと
乃うらよまじくを給りつゝと申禮つゝつゝ
けさ兼申乃強幼斜なつゝつゝんや兼

菴を菊へめ 幸なるあくねと 七月廿五日
なり 澄々 既よむくけく 雲来 巖よ 龍明 虹
の月白さこそ 鶏鳴 又いさうのさう 夏よとに
町ら 事へん 且と 勢も やこころのさうとて 縁
みあしたく 一さうのさう 秋べ 里まら 先
表とも かつらう 思ひ 志く 進も 進 指 政 政 も
仍半の 徒 在して 流出 あり 里と 秋の 七条 大ま
りて 懸つて 折ふ ころ 童子 け 浄車 の 前を け
とく 一さう 出る を 浄ら 衆す れさう の 童子
の 左れ 袂よ 夏乃 日とり ぶ 又 家そ あり くれ 多

不春の日と書てそりすのやうのをほお擁
護の春日大响神大織冠の浄すをふもり
流ふよろうとたのもーが おほく け 浄す 雨す
伴の童子の 一と ねと ねと け け

つふらん 藤乃す 乙義の つき ゆく を
たぐ 夏れ 日す 一 まり 勢て やみん
とも 小の を 藤た 浄門 射高 並 証の して 一の
世中一の あり さ 海を ころ 舟の 幸を なら け
浄奇 になく 正 仍 未 ぬる も 一 け け け け
のす せの つらと 作れ け け け け け け け け

を言言らまわつてくふゆき汚車路塵りた
大まやのつよはむうとくくに作りお山の
ユキニニヤナキ
多知是後へいりてをたひきり新中次衆無来
弓脇はさみ大馬込はあはききて中々るを
傍改没入汚とまるまををやくの事
ちんと志まらよすくみけととと人く子割
きくまて力及つて留まぬ中うと小妻三位
中將維威つや日未らま智ひまふも汚人子
本なれともさう面てそくくくくく
あのおあともや故中汚門新大油を成親錦

のむすあ三十一孤コをコ球キウせセくクもモ地チ教キョウ落ラクまマか
ころひヒ紅コウ粉コ眼ガンのノ媚メイをヲなナしシ柳リウ腰ウヅ風フウ子シ乱ラン行コウ
よそほひ又あつてしとも思ふもとと去代
汚あとも生ナマ逢ヘ十ジュウ小コなりぬああ志シをヲ妹イモ以ヒ藏
の姫ヒメ君キミたタりリきうキウまマのノ人ヒトとト面オモくクよヨをヲく
袴ハカマとト志シひヒ汚キつツてテ三サン位レイ中ナカ將ショウ意イひヒけケる
我ワをヲ日ヒ法ホウ甲カウしシやヤうウよヨ一イツ門モン子シ見ミきキくク進シンてテ西
國クニのノかカへヘ落ラク行コウなりわいのノまマあアてテもモ見ミそソく
志シをヲふフへヘたタれレとトもモ為ナすスとト款クワンまマつツなナれレ事コト心
やヤとト見ミとト汚キらんランとトわワりリかカくク一イツ張テウ台ダイ討トウ通ツウ

らうとてかゝぬともさ海なつるぬふらぬ
をゆめしゝあつるるゝゝをそのゆへをりの
ねん人よ色見も一えしてあれたたな
者ともをももろゝみぬかなをひく
人もたつたの多しきとやうくよなく
さめまへは水おとりの事をも志強
を引のついでを少くぬふ中将すをみうけ
たぐじと志ぬてを水お流すうらやふ
よき父もなす母もなすまてられををの
をたきまうとてえぬアキよスいうからん人

よきみよふなとぬるゝううらうの
名に整りありたれんううあをれみぬふ
又人こしうも悟をううまかいほく
ても伴ひなり甲一哲慮れ者ともまじむと
ほろこりみゝつともなるとよう整
よきまじむ小娘の養父のむつこともみお
ほろこり母なりよきまじむを者ひと
らうといのうきん控られまう方うら
まひ知てまじむまじむおさなふ老と
をい誰よ見ゆほりつよきまじむの

そらうのうらうとくめふふのりかとし
つや根ととや志よひ給つし三位中一将
まことふんを十三の建を十五の里みうめ
まふれを中の中一休の座へもともふつら
ともふしつみうさつらふまふれらまふしと
をくまうれいこしとく思ひしうさふを
かき抱うとくうりさ備うて軍れ件へ赴けし
やまししをく給ぬもくらの橋のうらま
うさの目をんをふつをさもふらうかぬうら
てうふししそのうらとをうらを用さこいひす

うらまの浦よとくやまう後若たうとくま
ふらまのひよ人をうらまうまうとく思ひ
切てそたくまけつ中門の席ふ出で鐘を
まふらふらさをうらまうまのらんとく
まふら夫婚若くうらまうてく父乃鐘の袖ま摺
ふらまのけえとくまうまうまうらまうてま
うらまのひのやらん我も糸ら糸まれもゆ
うらんと志よひなまのうらまうまうまう
のりまおがまうて三位中將とくまうらま
けまそえまうられけう清才新三位中一將

威左中将清隆同少将を威丹故得越忠房備
中一当師^ミ威足才五騎馬はなりあゝ門の内
をうらりつれ越よひのへ大畜あうとあまう
仍幸をさうりおのひさせ給ひぬらんよひ
うおや介をその運^ト業^トゆやと急くよ中
さまをれを三位中将するし打系ておられ
々々う又引か了し楯^ミのまきまうららまをり
乃りすまを清^ニ越^スをさうつとりのまあきてこ運
清^ニ越^スをさうらおこなふとともう^ニ清^ニ越^スをさう
とるし作を虎角あうらんとのびと清^ニ越^スの海

清^ニ越^スの禮も存外れ運業ゆやまひとあへんを
らけつとなきまよへを越おひの包給るる
んともみからるひの袖をさうゆらさまらる
こに三位中将の運業ゆやまひとあへんを
とて兄を十九才を十七よなりさふらひひ
つ三位中将の清馬れ左とるまはつて
いづくまも清^ニ越^スをさうらんとあへんを
位中将のまひまをのれらの父長井
毎孫別南美威の如國へ下らうとあへんを
といひを存するしひのあるそとてあへ

とく先をみ終ふ水國を討死志らふと志
らもらひものまてめくおへりまける事
盡てこと心からなるスーしうあれ六代を
とくのそゆこよいやさう扶持^{ツチ}まへま老の
かこそたぐ理をまきてとくまれしとの
治へを二人の者とも力及つずおみさる
さへて留里ぬ水もを多日二方町くたさ
もなさんとしうおもはへりしむしてひき
のつりくそやしぬふ君姫君女房をわす
癒るほのまを轉^マひおて人れましくともしく

うらまは詳出つるまをそむめまあきいぬを
うれくえくみくの産ふとくまうてさき
とあ海らたつ波吹風のそと下てもさやう
よううとえもれけさ平亂都落行よとく
池汲小虫教ハ深酒も糸く下くくの産く女
館ヶあつえくくの産れ若くく京白河
五百圓の在産く中領りきて一夜まられ
まう小成を至ま^セ終^シ考^{カウ}の地なり^{ホウケウ}風國む
名石す人のこし^コ常興^{ジョウキョウ}遠^{トウ}をやくむ或
后妃遊^{コウヒ}舞^{マシ}れみまんなりでうさうの産^{ウラ}る

セイニニリシカウ

うらひをまていのほゆりうねみあう
けいすい^{キョク}らやう^{キョク}の基^キとてうら^{キョク}の
皴^ク楓^フ疎^ス窓^{サウ}の栢^{ハク}毎日^{メイニチ}の遊^{ユウ}を^{キョク}びなう
一^{イチ}河^カ内^{ナイ}の^ク度^{タク}と^{キョク}なりつそ^{キョク}ね^{キョク}ん^{キョク}や^{キョク}成^{セイ}
の^{キョク}や^{キョク}ひ^{キョク}け^{キョク}を^{キョク}ひ^{キョク}て^{キョク}や^{キョク}況^{キョク}や^{キョク}鷄^{キョク}人^{キョク}の^{キョク}屋^{キョク}舎^{キョク}
よ^{キョク}を^{キョク}ひ^{キョク}て^{キョク}を^{キョク}や^{キョク}館^{キョク}炎^{キョク}の^{キョク}を^{キョク}よ^{キョク}ふ^{キョク}雨^{キョク}を^{キョク}ふ^{キョク}雨^{キョク}を^{キョク}ふ^{キョク}雨^{キョク}
十^{ジュウ}ヶ^ケ町^{チヨウ}なり^{キョク}流^{キョク}石^{キョク}忽^{キョク}に^{キョク}ほ^{キョク}ろ^{キョク}し^{キョク}を^{キョク}始^{キョク}整^{キョク}巻^{キョク}の^{キョク}落^{キョク}
荆^{キョク}棘^{キョク}よ^{キョク}う^{キョク}け^{キョク}に^{キョク}暴^{キョク}暴^{キョク}す^{キョク}て^{キョク}お^{キョク}ら^{キョク}や^{キョク}ら^{キョク}て^{キョク}威^{キョク}揚^{キョク}
ま^{キョク}ろ^{キョク}ふ^{キョク}王^{キョク}睥^{キョク}睨^{キョク}を^{キョク}か^{キョク}く^{キョク}らん^{キョク}も^{キョク}り^{キョク}く^{キョク}や^{キョク}や^{キョク}
お^{キョク}か^{キョク}も^{キョク}あ^{キョク}れ^{キョク}なり^{キョク}日^{キョク}と^{キョク}ろ^{キョク}を^{キョク}函^{キョク}若^{キョク}二^{キョク}晴^{キョク}の

けいすい^{キョク}を^{キョク}あ^{キョク}う^{キョク}せ^{キョク}り^{キョク}水^{キョク}狄^{キョク}の^{キョク}た^{キョク}り^{キョク}よ^{キョク}
あ^{キョク}れ^{キョク}を^{キョク}破^{キョク}ら^{キョク}る^{キョク}と^{キョク}や^{キョク}供^{キョク}河^{キョク}徑^{キョク}滑^{キョク}乃^{キョク}母^{キョク}の^{キョク}乳^{キョク}を^{キョク}大^{キョク}
め^{キョク}み^{キョク}の^{キョク}と^{キョク}も^{キョク}未^{キョク}成^{キョク}れた^{キョク}り^{キョク}よ^{キョク}こ^{キョク}を^{キョク}と^{キョク}と^{キョク}
ま^{キョク}ら^{キョク}う^{キョク}ま^{キョク}や^{キョク}た^{キョク}ち^{キョク}ま^{キョク}ら^{キョク}に^{キョク}礼^{キョク}儀^{キョク}れ^{キョク}て^{キョク}
誦^{キョク}美^{キョク}が^{キョク}さ^{キョク}ま^{キョク}て^{キョク}な^{キョク}く^{キョク}く^{キョク}無^{キョク}名^{キョク}の^{キョク}さ^{キョク}う^{キョク}ひ^{キョク}お^{キョク}か^{キョク}
を^{キョク}よ^{キョク}き^{キョク}ん^{キョク}と^{キョク}時^{キョク}を^{キョク}書^{キョク}の上^{キョク}よ^{キョク}る^{キョク}を^{キョク}や^{キョク}ら^{キョク}に^{キョク}神^{キョク}
終^{キョク}たり^{キョク}さ^{キョク}ふ^{キョク}を^{キョク}い^{キョク}ら^{キョク}く^{キョク}の^{キョク}ほ^{キョク}と^{キョク}に^{キョク}お^{キョク}お^{キョク}を^{キョク}
う^{キョク}な^{キョク}ふ^{キョク}拓^{キョク}途^{キョク}の^{キョク}こ^{キョク}こ^{キョク}福^{キョク}み^{キョク}り^{キョク}を^{キョク}日^{キョク}一^{キョク}
志^{キョク}威^{キョク}義^{キョク}學^{キョク}所^{キョク}の^{キョク}包^{キョク}を^{キョク}日^{キョク}お^{キョク}よ^{キョク}り^{キョク}た^{キョク}ま^{キョク}り^{キョク}
是^{キョク}を^{キョク}う^{キョク}ま^{キョク}ら^{キョク}保^{キョク}元^{キョク}の^{キョク}じ^{キョク}く^{キョク}を^{キョク}春^{キョク}の

花とさうアしのとち秀永のつとを扶け
みちとむらりつてぬ島山庄司を能小山田
尚多を宇津又左衛門尉トを能おやを治藤よ
つ秀永まてりつあられらるしその町
既子さうおへつるししを新中一納を志盛
つ美見小中さ進けふ是お百人千人のさひ
話さらきぬて山とも清運とにけふさ斐然
かま清を清たもぬをぬりん事ありか
故郷よ山藁子雨シ清寺つのもつこたけふか
なりみ依らんたくりをふげく下きせぬん

も一運命むつて部へのるまのからをぬ
こしとゆもくありかす清博てさうゆも
じと進と中さ進たれお居ぬ所ささう下
進とさうさひたれお進さうさう色紙地す
清を清なりのつくとまてりひなさ會をた
すけられつとをてらんを野代すお山代奥
さそもめ章の清従清のまけりつおも威
作もんち中け進と大居ぬらんらうのた下
志井やみお本國ささうあるらぬネチカラ脱つるさ
國へのささうささうなりたくとさうさ

事りふらることとをいりす思すては帝徳を
させ給ひぬぬ一門の運命はふもやけふし
ていられよつふとてを撰集ニラの浮世ニラある
つふより承ていひひうも生涯中の面目は一
首なりとも浮世城のうぬらと存いけり
もやうてをぬ乱まか来てそのさうなくは
柔らく一カたかけさと存する山も一あめ
のらをしつまつて勅選の浮世はゆつく
よゆるぬれ中一よさらぬへまうこら一
志也なりとも浮世道義てまれのきまても

存ぬらくと浮世道義てまれのきまても
らぬらと日ゆらとてつ連ふらうこととの
中一よ秀ニラおほく一れを百餘首のさあつ
められらうけらまうこの道とをとて打立
まげらとさう道とを承てもつれたりまら
鑑れ到合らうと承て後成つお存らる之位
二道ニラをひらうとみ給ひやう丹忌道新
見をぬらうとを承て作上をゆめくそらやう
そらんまうらういさくも只今の浮世ニラ
う情もぬらうあられも一勝ニラ感ニラ

故の町こみりけくみくそをく

経正法すくま下さまを

と連折のりきひの水あつしと連と

な経すまめうぬまはうらりか

と法也中りき努ぬと法あを死かられり

子教宗乃童類出を老指友得備りりこを

るそ経正代名波を行み狭小すうま法を

なうし袖証ゆきぬやたりのりまのり中

る色幼少の町小師ておしせう大ゆき法京

ゆり慶とししや蒸室大ゆきえ転つの子

なりあさつこよ名跡を行み正のせて桂川

代縁まや打送るうまうまと能結てゆられけ

新う流常なくしううう思ひけくまぬふ

あこれなり老木あ本もやまあう

をくれう記ならむそのこら

経正の世も

揺るあもよぬく袖をのこし

思へやり連さとをくゆかると

さうあてもいさうれうけう赤繼うらと

さう揚られあうこあくおひの

なう侍ともめもやとて地あつまるまを
百誘りるまむらとをを釣をもやめてあつた
世イササク
見新寺に区付をらるる文の證正十七のり
字依乃勅使を承て下られけりよそのとき
香山を釣くる依へ海に流し流敵よひりつを
て細曲紙ひき釣ひりよもいりまくなれた
子事へおけききとも乃ちや人をしなして
縁衣に袖をうきやうまの安志くね奴まを
も村多とをふりりお目かかつりり
もなり好香山と申流琵琶をむり仁明天

曾代の流宇嘉祥と逢三月小掃部頭 文敏渡
唐代阿大唐の琵琶人博士 盧妻史のひ三
曲をつつて帰約をよる代阿玄象獅子
丸香山三面の琵琶をお侍してまのりり
の終神やおしとひん波風あつたたら
これ獅子丸をい海庭よ一の切つる二面
の琵琶をまのりて我が朝の流門の流藝とら
村上乃至代意おれはげひに又お中一の新
月白をいり涼風さつくまのりて
流門清涼教りて云
ケ

イナシヨシヨシ

のくまらまらぬよらうき山とや
これま象うとをくらわ希代のる物なり池
大納言頼威つを池沼に火のきておられけ
けの鳥羽れ南門まで忌進いふことありと
て赤志新くともりふりてくそのあせい
三百騎つらして都へきてつるに頼中一攻
兵衛威頼大尾沼に汚およ池系りつうま馬
より死てたつらろ脇はさみ叩こまつてあ
まは沼らんへのあ沼汚ぬとすい何てあがを
の物ともとくまらまらう新怪よむほくぬい

け沼まををたろまをけんをさふらひを
よ矢ひと川村のあゆもくやや甲なれあ大
尾沼つらまほとのありさ備ともをみまを
ぬやと乃名南人をあなくともありると
まへやちうらう及つて村さりまのよ小垂ぬれ
忠達やりのつらとまへやまを汚一雨もんく
さ波あまひ山つすと申す大尾沼都を出て
今一日へたも過さふよらやんをのむとを
のうもつめうつてまよとをまひけら新
中油を志威つ初末とくもたのめ
ラス

たゞ部の内にてつゞきなきを強^トく
しも中^トにけるものをとて大層敵の情^トか^トを
ようをううのけりもそこの下^トにける採^トい
き敵の汚とくま^トをうつふとりふも無^ト儀^ト依^ト
於朝つ子を情^トか^トけく情^トか^トをい金を^ト跡^トに
智^トい^トを^トら^トれ^トひ^トえ^トよ^ト於^ト池^ト教^トれ^ト汚^トわ^トら^トま^トと^トこ
う存^トら^トへ^トハ^ト幡^ト大^ト美^ト蔭^トも^ト汚^ト昭^ト福^ト心^ト以^トへ^トな^トと
夜^トく^ト摺^ト木^トを^トも^トつ^トて^ト中^トさ^ト連^トき^トり^ト平^ト亂^ト運^ト符^ト乃^ト
討^ト手^トの^ト便^ト乃^トの^ト不^ト子^ト度^トこ^トと^トま^トを^トい^トふ^トと^トの^トれ
さ^トゆ^トひ^ト小^トひ^トの^トけ^トで^ト引^ト引^トな^トく^トと^ト夜^トく^ト勞^ト心

きくまたのうたれを一口に平亂を運^ト以^トふて
都^トを^トら^トぬ^トと^トを^ト崇^ト崇^ト依^トよ^トう^トた^トを^トま^トう^トれ
じ^トと^トま^トと^トて^ト落^トと^トく^ト下^トら^トれ^トら^トう^トけ^トる^トと^トそ^トこ
こ^トに^トい^トの^ト衆^ト女^ト院^トれ^トま^トふ^トを^トし^トつ^トく^トさ^トに^トお^トそ
ま^トさ^トせ^トな^トひ^トて^ト仁^ト和^ト寺^トの^ト為^ト盤^ト汲^トふ^ト志^トれ^トふ^トて
ま^トしく^トけ^トる^ト取^トへ^ト新^トり^ト終^トら^トれ^トま^トう^トま^トの^ト新^ト威^ト
つ^トと^ト中^ト女^ト院^ト乃^ト汚^トめ^トれ^トと^トま^トお^ト汲^トと^ト中^ト女^ト房^ト
小^トあ^トを^トき^トく^トまた^トま^トう^トら^トる^トよ^トう^トて^トな^トり^ト自^ト然^ト
の^トあ^トも^トも^トう^トく^ト損^ト威^ト助^トさ^トせ^トお^トう^トま^トを^トと^ト中^ト
ま^トま^トた^トれ^トし^ト女^ト院^トと^トを^ト世^トの^トさ^トで^トま^トあ^トく^ト
五

うきよはに頼りけもなうそ作らるコソハ 三
衆依らるるさう芳心頭存すと以て二館の
源氏おをりつゝあうそすうんとおもつ建け
ねとあまーいよ一門をひきまのれてか
を落やうふまぬ波の色二礫を色けのぬんち
そきうれまらるるほくよ小松波れ老連見
才六人部言うれせい千箇誇てうと乃と回
河原まてゆきよ二延付まらる大信波斜なる
とてまつし三位中一将おこなをい老とも
とてまつし三位中一将おこなをい老とも

ろあふまよまのひゆをとりうあらんを
うんと仕る程お存の外乃建系ゆや甲さ建
け建し大信波なとと代ぬをこのけをき
建ゆもぬそ心けうもととめぬ物うか
と盡つし三位中將ゆくす点とてもたのこ
しうもゆつすともとふおつゝさのたみる
城たのさ建たるささけ建系ゆの甲
鼠をた建くそあ由大信波乙平大ゆを
時忠平中ゆを教感新中ゆを教感新大文
源感志傳門督清宗平三位中一將を小松 乙

やせをぞふり王とたちの不子の暇

修理大吏臨感

あるごとくをやも野のまうとつる王みく

すともくふりの波路をそめ

まことたに故つをし一行の三松三登三りゑして

行くお達美里れ雲路は軒の連々んん中

をしちうのくまそし表なり肥故ち大結を川底

は徳氏ふつと費てけらくさんとそそその後

五百餘路て舞白志らまげらうひの申なれ

まことそそしむのほろやとふうや野人の色

こそ初幸よ系りあふつうま馬より飛てお

まう賜はまみ大信波の山およぎてあれは

うやあやつりちつもとてわさき路ひゆや境

西園へららるをゆひうるる落人としてあう

こあくまてうりもるさ連てまう一海さん

事くらねうらへしたく都のうらうそ

いのふをなうを路ふうもやゆらんとや

はれも大信波大結をいまるこさくぬの本音

すては小園らうそ美名路てきあのほり法

船山東坂りともみりしくたんなりは

ホウキ

さういふ事よう變さう勞汚ひぬせめて
つらさをもたぬ一すつともと思ふ
うつととまへとさふらとさふらとを方の
いぢまを終らつてさやあめうらよそりの
ふもなりゆもんとてつらとけつら
百多汚乃強をふ小松汲れ志をよはる
さも世母驛つらとやふへをせつらと平亂
乃強をよまふのありとくまつらとさう
たんとて終つらつら入らとさつらとさ
池大袖言を頼威の方のうへとそつらとむと

ら舞とちとよむつらとさつらとさつらと
西八条の焼死と大幕ミラひつらと一
それともよりつらとさつらと一人も
たせさつらとつらとつらとつらと
つらと思ひつらと源氏のつらとつらと
とつら小垂汲のつらとつらとつらと
つらとつらとつらとつらとつらと
つらとつらとつらとつらとつらと
つらとつらとつらとつらとつらと
つらとつらとつらとつらとつらと

不儀君八徳心ハカリ事ヲカサテ

つげらお侍播代のりーみ後桑日くふのま
思ひつてゝわもるふかかれし老いりもあ
まをうしろおまかつるまみくおつしすくみ
もをうさるまかり或を礫色の波枕いまの塩
路小日とくくまきまをまを換しを凌さ
て約し親人まわり再入一擗者もわりとく
ひこま落しきり平家や福原代舊里ま若て
大原汝様るつるか約敷百人うまきひけり
を播磨の館慶友まけふ横面入館奨力ま及
りぬま神助まともぬれなり夫らまともく

フクハラチ

られまのりきく希部を出て播泊し深小上
まゆ乃たのまのまつふかかれとも一樹の陰
ま高家とあ世の築りあさくす同一流を
むすふも地生乃海根母し況や海赤を一
上流ひ附門あにわくま累祀お侍れ死人也
或るを親のりーみ地まともるもわり或る
ま代若思まゆのまもらり亂口懸昌乃い小
志るやま思波おふりて松を懸て何う今ま
若思まひくままや結れま十善希ま三
種神思を帯して渡ら勢あまのりりゆらん

登れす之山の奥まへも如幸の清流
りふもなごんとをばもりすややまへも花
か管海をくくんとあやしの鳥獣も忍を推
志懐をじくふむをわなりやわんや人倫
の力くしていつくこれしつりを存知はらへ
きくへま純中より紫馬上より携りくくし
二ひあるをもつて死とをいつくしんやま女
年のもる書子をくくみ下送をう包り見ゆ
こしと志のけりまその清をんなさすと
りふまなごのまじ日本の外新羅百濟

高麗琴丹書のもて海人果まへも如幸の清
ともけりりのまをなり山もんと吳は固き
よ甲らうくれもくみかたのもしけり
このまをさるほしよ平家と福原の舊道
しそ一巻をくあつさまけりあつさ秋乃
月を下れ強なり深文室和梁りしてさひね
乃木のま枕落もなみさもあつさひてた
物流もくろくさつさの海流へしやもあか
尋ねし故入るお圃れ能なきひしし
とみぬふよ春や花見のまの清流結る見

入溪の清水泉^{イロミ}汲松陰^{カク}殿ニ階^{カク}棧^{カク}お汲^{カク}馬^{カク}房^{カク}
寫^{カク}見^{カク}清^{カク}水^{カク}蓋^{カク}清^{カク}水^{カク}人^{カク}こ^{カク}の^{カク}皴^{カク}とも^{カク}立^{カク}糸^{カク}大^{カク}納^{カク}を^{カク}
因^{カク}繩^{カク}つ^{カク}ぬ^{カク}て^{カク}造^{カク}を^{カク}き^{カク}う^{カク}れ^{カク}一^{カク}と^{カク}肉^{カク}毫^{カク}毫^{カク}の^{カク}の^{カク}
と^{カク}玉^{カク}れ^{カク}り^{カク}一^{カク}と^{カク}と^{カク}い^{カク}つ^{カク}れ^{カク}え^{カク}し^{カク}く^{カク}之^{カク}邊^{カク}の^{カク}
禮^{カク}よ^{カク}煮^{カク}し^{カク}て^{カク}一^{カク}篤^{カク}若^{カク}き^{カク}を^{カク}臺^{カク}の^{カク}の^{カク}茶^{カク}門^{カク}を^{カク}
因^{カク}う^{カク}つ^{カク}り^{カク}ま^{カク}ら^{カク}を^{カク}ひ^{カク}植^{カク}よ^{カク}け^{カク}る^{カク}長^{カク}ま^{カク}り^{カク}着^{カク}飲^{カク}
つ^{カク}く^{カク}苦^{カク}む^{カク}き^{カク}り^{カク}去^{カク}風^{カク}乃^{カク}三^{カク}や^{カク}か^{カク}り^{カク}ら^{カク}ん^{カク}着^{カク}飲^{カク}
ぬ^{カク}や^{カク}わ^{カク}り^{カク}し^{カク}な^{カク}り^{カク}月^{カク}氣^{カク}れ^{カク}を^{カク}差^{カク}入^{カク}り^{カク}る^{カク}わ^{カク}を^{カク}
ぬ^{カク}き^{カク}し^{カク}福^{カク}取^{カク}れ^{カク}肉^{カク}毫^{カク}よ^{カク}火^{カク}取^{カク}り^{カク}て^{カク}之^{カク}上^{カク}を^{カク}始^{カク}
ふ^{カク}つ^{カク}を^{カク}て^{カク}う^{カク}れ^{カク}清^{カク}水^{カク}子^{カク}の^{カク}す^{カク}部^{カク}を^{カク}ぬ^{カク}り^{カク}一^{カク}ほ^{カク}と

こうがきをまこととてさきもるありを初^{カク}く^{カク}
ま^{カク}つ^{カク}て^{カク}あ^{カク}ら^{カク}の^{カク}く^{カク}く^{カク}の^{カク}お^{カク}ふ^{カク}々^{カク}々^{カク}尾^{カク}上^{カク}れ^{カク}如^{カク}
の^{カク}嶋^{カク}れ^{カク}る^{カク}之^{カク}渚^{カク}こ^{カク}よ^{カク}ら^{カク}る^{カク}か^{カク}を^{カク}此^{カク}着^{カク}油^{カク}す^{カク}
や^{カク}や^{カク}り^{カク}る^{カク}月^{カク}れ^{カク}氣^{カク}ち^{カク}ら^{カク}る^{カク}一^{カク}と^{カク}た^{カク}し^{カク}懸^{カク}橋^{カク}の^{カク}
ま^{カク}り^{カク}く^{カク}す^{カク}と^{カク}く^{カク}目^{カク}よ^{カク}み^{カク}耳^{カク}よ^{カク}み^{カク}れ^{カク}く^{カク}事^{カク}の^{カク}
ひ^{カク}と^{カク}り^{カク}と^{カク}して^{カク}表^{カク}を^{カク}も^{カク}よ^{カク}り^{カク}一^{カク}と^{カク}を^{カク}つ^{カク}て^{カク}ま^{カク}り^{カク}
ゆ^{カク}す^{カク}と^{カク}り^{カク}み^{カク}申^{カク}な^{カク}り^{カク}時^{カク}る^{カク}を^{カク}在^{カク}察^{カク}よ^{カク}く^{カク}つ^{カク}て^{カク}
と^{カク}な^{カク}り^{カク}て^{カク}十^{カク}美^{カク}名^{カク}清^{カク}々^{カク}ふ^{カク}を^{カク}海^{カク}波^{カク}の^{カク}上^{カク}
よ^{カク}と^{カク}も^{カク}は^{カク}か^{カク}を^{カク}ぬ^{カク}て^{カク}七^{カク}子^{カク}館^{カク}人^{カク}の^{カク}雲^{カク}海^{カク}流^{カク}く^{カク}と^{カク}り^{カク}
て^{カク}去^{カク}夫^{カク}す^{カク}て^{カク}ふ^{カク}ら^{カク}れる^{カク}ん^{カク}と^{カク}も^{カク}孤^{カク}鴻^{カク}よ^{カク}ら^{カク}る^{カク}

て月ういしやうお浮るり極浦の波をキヨホ形樹
よひのまきしゆり船や半云此言およあつこし
子日教あれをさやあを既よ山川をとをる
たてし書井乃よりうまそなりまける登カこま
ゆとねりしよをたかく盡きぬねをたみるや
波れうへよしろき島のむまぬををみるひ
てをうまきから森を盡れなふし一のすま田
河うそくしひん名もむつましさまお
まうかとのもまきなり秀永二徳七月廿五日
よ平家都を落してぬ



平家物持書中七

